

## 令和元年度 第4回 山口南警察署協議会会議録

開催日時	令和2年2月5日（水）15時00分から16時15分まで	
開催場所	山口南警察署 4階講堂	
出席者	委員	古谷 雅之、上野 敦子、山下美代子、西村 清和、 上野 知一、伊藤 瑞生、原田 茂樹、仙石 愛子 計8名
	警察署	署長、副署長、警務課長、会計課長、生活安全課長、 地域課長、刑事課長、交通課長、警備課長 計9名
議題	1 業務説明 2 高齢者の交通事故抑止対策	
<p><b>1 会長挨拶</b></p> <p>令和元年度第4回山口南警察署協議会に出席いただき、感謝申し上げます。</p> <p>今年は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されるが、大勢の人が集まるとなれば、テロに対する警戒が必要となる。また、現在、猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症に対する警戒も必要であり、警察の皆様にとっては多忙な1年になると思うが、十分な備えをお願いしたい。</p> <p>また、年末年始は特別警戒活動が功を奏し、山口南警察署管内では大きな事件事故は発生しなかったと聞いており、市民が穏やかな新年を迎えられるようご尽力いただいたことに感謝を申し上げます。</p> <p>本日は、「高齢者の交通事故抑止対策」について説明をしていただくが、この問題は警察だけではなく、行政や地域社会も一緒に取り組まなければ、成果を出すことが難しい課題である。</p> <p>委員の皆様には、本日のテーマに基づいて、積極的な意見交換や助言をお願いしたい。</p> <p><b>2 署長挨拶</b> 省略</p> <p><b>3 業務説明</b></p> <p>平成31年1月～令和元年12月の業務推進状況について、以下の項目に沿って説明した。</p> <p>(1) 警務課関係</p>		

ア 警察安全相談

**(2) 生活安全課関係**

ア 犯罪抑止

イ 少年非行

**(3) 地域課関係**

ア 110番等受理状況

イ 地域安全活動

**(4) 刑事課関係**

ア 刑法犯の認知・検挙状況

イ うそ電話詐欺の認知状況

**(5) 交通課関係**

ア 交通事故発生状況

**4 諮問事項**

高齢者の交通事故抑止対策について説明した。

**5 協議**

**(委員)**

交通事故発生後に当事者が亡くなられた場合、何時間以内に亡くなられたら交通死亡事故として計上されるのか。また、何歳以上の方を高齢者としているのか。

**(交通課長)**

交通事故統計上、交通死亡事故として計上しているのは、交通事故が発生してから24時間以内に当事者が亡くなられた場合としている。

また、高齢者については、65歳以上の方を対象として整理している。

**(署長)**

交通死亡事故の統計上の区切りは24時間としているが、24時間を経過してから亡くなられた方も、交通事故で死亡されたことに変わりはない。こうした統計上の整理により、昨年の県内交通事故死者数は45人となっているが、実際には24時間以上経ってお亡くなりになった方もおられることとなる。

**(委員)**

65歳以上の交通事故発生率について、5歳刻みで統計を取っているようだが、年齢と交通事故の発生率には関連性があるのか。

**(交通課長)**

どの年代も身体機能の低下等の個人差が大きいため、一概に「何歳以上になると交通事故発生率が高くなる」とは言い切れないが、傾向として75歳以上の高齢者になると増加がみられる。ただし、75歳以上の年代においても交通事故発

生率には個人差がある。

(委員)

今後は、年齢を基準とするだけでなく、自己の運転技能を手軽に診断できるような仕組みづくりが必要ではないかと考える。

また、昨年、県内で50人近く、山口南警察署管内では2の方が交通事故で亡くなられたのは事実であり、能力試験のようなものがあるのも良いのではないかと思う。

(委員)

事故の発生状況等を踏まえ、4点お願いしたい。

1点目は、横断歩道手前で停止しないドライバーに関して、以前、小学校に行ったときに、子供たちから登校時間帯にボランティアの方が立っているときはドライバーが横断歩道手前で止まってくれるが、自分たちだけのときは、横断歩道を渡るために待っていても止まってくれないという話を聞いた。特にきらら付近の道路は、横断歩道付近に人が立っていても車はなかなか止まってくれない。本来ならば、歩行者が横断歩道付近で横断するために待っていたら、車は止まらなければならないはずだが、浸透していないのだろうか。テレビでも横断歩道における歩行者優先について広報されているが、法令違反として交通指導をしていただき、ドライバーの意識が高くなることを願っている。

また、私たちの自治会では高齢化率が60%を超えており、高齢者は歩く速度が遅い方が多いので、渡ることができるかと判断してもご本人たちが自覚している以上に時間がかかってしまい、周囲から見ていると危ないと感じることがあるため、併せて対策を考えていただきたい。

2点目は、踏切における取締りに関して、子供たちから踏切手前で一時停止しない車がいるという話を聞いているので、対応を検討いただきたい。

3点目は、反射材の着用に関して、阿知須地区はウォーキングをする高齢者が多いが、中には反射材を着けていない方もおり、暗い時間帯の運転中に歩行者に気付くことが遅れ、ドキッとすることがある。以前、高齢者を対象とした講習会に参加した際、反射材の着用者と未着用者について、どれくらいの距離からであれば姿を確認することができるのか検証を行っていただき、反射材の効果と着用する必要性がとても良く分かった。こうした活動を続けていただくことで反射材の必要性について理解が深まり、交通事故が減るのではないかと考えるので、これからも反射材の着用に関する啓発活動に取り組んでいただきたい。

4点目は、高齢者の運転免許証自主返納に関して、高齢ドライバーの方にポリスニュース等の広報資料を見せるなど工夫をしながら、運転免許証の返納を積極的に推進していただきたい。

**(委員)**

山口市内中心部のように交通網がしっかりしていて、それなりに便利であればよいが、南部と北部は商店や病院が少なく、車がなくては生活がままならないため、高齢者が車を手放すことなく運転を続けているのが現状である。

以前、運転免許証の自主返納率が上がっているという新聞記事を目にしたことがあるが、実態はどのようになっているのか。

**(交通課長)**

運転免許証の自主返納制度は平成10年から始まり、当初、自主返納をする人は非常に少なかったものの、高齢ドライバーによる交通事故が社会問題化するにつれて徐々に返納者数が増加してきたが、平成20年頃からはこの数が頭打ちになっていた。再び返納者数が増加するようになったのは、平成29年3月の改正道路交通法を受け、認知機能検査が開始されてからであり、「免許を取り消されるくらいなら返納した方が良い」という考えや家族に運転免許証の返納を勧められた高齢ドライバーが増えたことが一因として考えられる。

また、平成31年4月には、東京都の東池袋において高齢ドライバーによる交通死亡事故が発生したことを受け、「自分も同じような事故を起こしてはいけない」といった考えが広まり、更に返納者数が増えたという話を聞いている。

しかし、現実問題として運転免許がないと生活に支障があるという方がおられる実態があることも承知している。

**(委員)**

山口市南部は農村地域であり、小郡や阿知須を除いた地域では、車がなければどこにも行くことができない。ほとんどの高齢者の方は、高齢ドライバーであることを自覚しており、いつ自主返納すべきかを考えながらも生活に困るので車に頼っているという状況である。

各地域ではコミュニティバスが運行され、返納者を取り巻く交通環境は少しずつ良くなってきてはいるが、バスでは自分の都合の良い時間に買い物や病院に行くことができない人が多い。

年を取って足腰が弱り、足どりはおぼつかないが、運転時にはシャキッとされている方もおられるので、返納する時期をどのように判断したらよいのか難しいところがある。

今後、高齢者の運転免許更新制度が厳しくなっていく話を聞いたが、そこで判断していかざるを得ないのかと思う。

**(委員)**

先ほどの説明の中で、自助、共助、公助の話があったが、自分には何ができるだろうかと考えたところ、老人クラブ、サロン等、お年寄りが集まる機会において啓発活動を行うことができるのではないかと思った。

また、交通安全学習館にはさまざまな設備があるので、老人クラブ等での団体利用を推進することも良いのではないかと考える。

しかし、今のところ特効薬のような効果的な解決策が思いつかない。

**(交通課長)**

高齢者の運転免許に関する問題をはじめ、交通を取り巻く諸問題は難しい点があることを認識していただければありがたい。委員の皆様からも、さまざまな場において「難しい問題である」ことを話していただくことで、出席しているお一人お一人が、それぞれの立場で何ができるのか考えていただくことがすごく大切ではないかと考える。

**(委員)**

他人から見て運転技能に難があるような方がいたとしても、本人が諦めない限りは、運転免許を更新することができるのか。このような方に対して、警察から「更新をしてはいけない」と言うことはできないのか。

**(交通課長)**

運転免許を取り消すことは、行政機関が個人の権利を奪うこととなるので、多くの判断材料を揃えて慎重に判断していくこととなる。

**(委員)**

認知症の疑いがあり運転を継続することは危険である方がいた場合であっても、車に乗り続けたいという本人の意思が尊重されるのか。返納を勧める話ほどこもしないのか。

**(交通課長)**

山口県警察では、運転免許証の返納に関する相談窓口の一つとして「高齢者免許センター」を設けている。

以前、娘さんに連れられて訪れた方がおられ、ご本人は、まだ運転を続けたい様子であったが、じっくりとお話をさせていただいたところ、運転免許証の返納を決意されたという事例もある。

**(委員)**

私の身近なところでも運転免許証を返納した事例をいくつか知っているが、たいていの事例は家族から相談を受けて、民生委員と駐在所の方が一緒に何度も訪問して返納に至ったと聞いている。

ところで、先日初めて自動車学校で高齢者講習を受けたが、生活のために運転免許証を手離せないからか、実車を運転しない受講者もあり、自動車学校では、高齢者の生活を考えると「運転しては駄目だ」と言えないのではないかと感じている。

**(委員)**

自動車学校では、はっきりと駄目だとは言えず、あくまでも自覚を促す程度に

留まっているのではないだろうか。

**(署長)**

運転免許証の返納は、やはり家族の支援や後押しが一番ではないかと考える。

例えば、一方通行の道路を逆走した高齢者を見掛けたら、家族を呼んで、運転中の様子でおかしいと感じたことはないか確認した上で、逆走したことを説明して「そろそろ返納を勧められてはどうか」などと話をすることで、家族が説得され、返納に至るケースも多く見られる。

**(委員)**

運転免許証の返納に関する相談は、高齢者免許センターだけで受けているのか。

また、運転免許証の返納に関する相談は、検査結果に基づいて行うこととなるのか。それとも本人からの相談によるものか。

**(交通課長)**

運転免許証の返納に関する相談は、高齢者免許センターと警察署のどちらでも受け付けている。

また、相談の内容としては、相談に来られた方が受検した認知機能検査の検査結果に関するもの、運転免許証の返納手続等に関するものなどとなっている。

**(委員)**

老人クラブの会合で「認知機能検査の問題集はインターネットで調べることができる」「本があるだろうから調べてもらえないか」と言われたことがある。以前は、事前に問題を見ることに対して悪く捉えていたところがあったが、今は、検査制度が高齢者同士の話題となり、学習を一緒にする良い機会になっているのではないかと捉えるようになった。

高齢者の交通事故抑止対策というテーマを通じて、若い世代も含め、運転免許証を保有している全ての人が、改めて「交通」について考える変動期を迎えているのではないかと感じている。

**(委員)**

運転免許証の返納については、年齢よりも個人の技術で物事を考える方が適切ではないかと思う。

65歳以上の方が対象車を購入するときに補助金が出るサポカー補助金という制度があるそうだが、知らない人も多いようだ。今は運転免許証の返納に目が行きがちだが、高齢者が長く安全に運転を続けられるよう、サポートカーや補助金制度にも目を向け、警察や行政、地域社会がもっと広報していく必要があるのではないだろうか。

情報を早く発信し、地域の方に知らせていくことも大切であると思った。

## **6 意見交換・質疑応答**

(委員)

万引きが増えたと説明を受けたが、実際の発生件数は今も昔も変わっていないのではないだろうか。今は、防犯カメラ等があるので、以前は見つけられなかった万引きが見つけられるようになっているのではないかと考える。

(署長)

今は店内に防犯カメラが設置されているので、万引き被害の届出があれば、大半を検挙している。

委員のご意見のとおり、以前は見つけられなかった万引きが表面化していることで、件数が増えているものと考えている。

## **7 配付資料**

令和元年度第4回警察署協議会資料（警察署作成）

## **8 次回警察署協議会の開催日程**

令和2年度第1回警察署協議会は、令和2年5月中に開催することを決定した。